



ルー
テル

藤が丘だより

発行 月報委員会

発行日 2023年9月3日

No. 112

自分の体を神に喜ばれる
聖なる生けるいけにえとして献げなさい。

ローマの信徒への手紙 12章1節 ・ 新共同訳



宣教40年の旅 -100%感謝して-

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。

テサロニケの信徒への手紙一 5章16-18節 a

ルター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会 牧師 佐藤和宏
〒227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp



今日の福音の日課について、カトリック教会の雨宮神父が次のように書いています。「信仰告白とは、神からの『呼びかけ』に対する人間の応答であると言えます。・・・そして、神は『呼びかけ』に応答する者を礎として、ご自分の『教会、エクレシア』をお建てにになります。エクレシアというギリシア語の背景には、エダーというヘブライ語があり、その動詞形はヤアド『名指しで呼ぶ』です。したがって神の教会とは、神が『名指しで呼んだもの』という意味です。・・・その意味で、『教会（エクレシア）』・・・の礎とは、『みことば』なのです。」（主日の福音）

少し長くなってしまいましたが、第一に「信仰告白」について、第二に「教会」について言及されていました。まず信仰告白については「神からの呼びかけに対する人間の応答である」と言われています。福音の日課でも、イエスが問いかけ、それに対する応答として、ペトロが「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えているのです。つまり信仰告白とは、私の信仰を明らかにすることにちがいないのですが、そのすべてに先立って神からの呼びかけがあるということなのです。続いて「教会」については、その語源から神が「名指しで呼んだもの」という意味であるとありました。つまり教会とは、神によって名指しで呼ばれた民の集まりということなのです。ここで大切なことは、教会という私たちの集まりは、「神によって名指しで呼ばれた民」の集まりであるということになります。人ではなく神が呼び集められた、つまり神がすべてにおいて主語となられる、人の集まり、それが教会なのです。「名指しで」というのですから、たまたま私がここにいるという

ことではなく、神があなたを選び、あなたの名前を呼ばれた、これこそ、あなたがここにいる理由のほかならないのです。

毎日2度、御言葉を発信しています。先週配信されたもので、次の御言葉がありました。「自己推薦する者ではなく、主から推薦される人こそ、適格者として受け入れられるのです（コリントの信徒への手紙二 10 章 18 節）」。同じ日の午後、先の御言葉に、短いコメントを加えて配信いたしました。「自己推薦は人の行ないを問うでしょう。主の推薦は、人の存在に目を向けます。あなたがいるということが、主に欠かせないことなのです。」

主がどのように思われているかが重要なのであって、人が何をしたか、どのように役に立つかといったことは問題ではないということです。神があなたを推薦するのは、あなたがかけがえのない存在だからであり、それは神ご自身がそのように決められたということなのです。「名指して」ということもこれと同じで、神があなたの名を呼ばれた、このことにすべてがかかっているのであり、あなた自身の内に「自己推薦する」ような内容を持ち合わせていなくてもいいのです。

説教題を「我、信ず」としました。説教の準備を進めていく中で、私たちがいかに信じるかということよりも、重要なこと、しかも決定的なことがあると思われてきたのでした。「我、信ず」、それは主なる神ご自身が、私たちの主イエス・キリストを通して、私たちを信じていてくださるという事実なのです。この事実によって、この事実が私たちの信仰の土台となって、私たちはそのままの自分を安心して生きることができるのです。

（聖霊降臨後第 13 主日）

78年前の今日、広島に原爆が投下されました。その頃、両親は大阪の居りまして、私は母のお腹の中に居た事になります。父は小学校の教師をしていました。学生でも皆戦地へと召集された中、子どもたちを守るため、教師へは仲々、いわゆる赤紙は来なかったそうです。しばらくして終戦になり教育制度も変わって行き、父は考えるところがあったのでしょう。キッパリと教師を辞めて二人のふるさと岡山へ帰りました。親戚からのオファーもあって畑違いの会社員となって最後まで良く働いてくれました。そんな平凡なサラリーマン家庭で私はのんびりと育ちました。私が初めて教会へ行ったのは4、5才の幼稚園の頃だったと思います。田舎の町にも白いペンキで塗られた小さな教会があって、年上の従兄弟達に連れられて通っていたのを憶えています。唯聖書も讃美歌の記憶はなくて美しい聖壇、おいしいクッキーやパイを頂いたことだけははっきりと憶えて居ります。

我が家も伯母の家もどちらかと言うと熱心な信徒でしたが今でもそうだと思いますが世間一般では子どもを教会学校へ通わせると良い子に育つとそんな存在が教会にはあったのかも知れません。その内、従兄弟たちも中学に入り自然に教会から遠ざかりました。中学は金光教の学校に入りました。全く宗教を押し付けられる事もなく唯、修学旅行に行く前、本部へ行って教祖様の「祝詞」を頂きました。

その教祖様が同級生のお父様でしたからおかしくてクスクス友人と笑ったりしてまことに不謹慎な生徒だったと思います。

卒業後は東京の学校に入ってそこはミッションスクールでしたからそこで初めて聖書を学びました。仏教書と違って平たい言葉で書かれてはいるのですがなんでこれが善とさ

れ悪とされるんか最初はよく分かりませんでした。興味深い授業でもありました。私のまわりにはクリスチャンの友人も何人か居て時々教会へも誘われ行って居りました。でも何となく敷居が高く緊張していたのを憶えています。

結婚してしばらくして東京での生活が始まりごくごく平凡な毎日を過ごして居りました。丁度私が40才半ばの頃、忘れもしませんが春休み3月21日でした。朝歯を磨くのですが右の口からダラダラと歯磨き粉が流れ落ちるのです。ウガイをしようにもブクブクが出来ない。目も痛い。フト鏡を見ると目は閉じない右半分が全く動いていないのです。

休日診療の病院からすぐに聖マリアンナ病院へ行き即入院となりました。5日目の教授の診察でヘルペスウィルスによるハント症候群による顔面、喉、口の中の麻痺でした。

退院後も一年半いろんな治療に通院しましたが限界があると治療も打ち切れあとは良くしゃべり良く笑う事が何よりのリハビリであると言われましたが何しろまだ40才代でしたから本当に絶望致しました。命がとられる訳でも歩けなくなる訳でもないのに私は甘ちゃんです。育ってましたから辛くて朝、目が覚めるとずっと夜のままであって欲しいと思いました。3割位は回復したのですが今でもうまく食べられない、飲み込めない、うまく発音できない、目が完全に閉じない、そして見た目です。美人ではありませんが100万ドルの笑顔と言われていたのですよ。まわりの人たちも良く励ましてくれました「頑張って」「もう殆ど分からない」「耐えられない荷物は神様は与えられない」。私も幾度となく病んでいる人たちにそう言って励まして来ました。

でもその時の私自身は腹が立つ自分がそこ

に居ました。せっかくの好意を素直に受け入れられないと今度は自己嫌悪です。

その間、色んな本を読みました。不思議な事に選んだ本は殆どがキリスト教関係でした。曾野綾子、三浦綾子、遠藤周作。中でも「沈黙」は衝撃的でした。お読みになった方は多いと思いますが私はキチジローと同じだと、ロドリゲスもキチジローも神様を裏切った後真の信仰を得たのだと。レベルの違いはありますが私の原罪をみつめ直す良い時間でもありました。そして無性に教会へ行きたいと思ったのです。それもわたしのことを誰も知らない教会へと。あとで友人たちやクリスチャンの叔母、のちに牧師になった叔母から驚かれましたが自分でも良くわかりません。

そしてずっとテニス仲間だった○井さんにどこか教会を教えて欲しいと。すると「藤が丘があるじゃない！」とそのひと言でした。全く教会の話もした事がなく唯ひたすらテニスをがんがんやっていた友なのです。江口再起先生のお説教は最初からストーンと私の胸にひびき渡りストーンと腑に落ちて行っただけです。2ヶ月程経って受洗したいと江口先生に申し入れましたら即「はい、宜しいですよ」と仰ってくださいました。江口先生は神様はいつも○谷さんの心のドアをノックし続けてくださった。そして今、○谷さんがドアを開いたのだと。禅語の「卒啄同機」を思い出しました。でもその時はまだ私がキリスト教を選んだのだと思っていました。でも違うのです。佐藤先生がいつも仰る様に主語は「私」ではなくて「神様」であると。神様がその時その時をご用意して整えてくださったのだと今、ハッキリと解り心から感謝する毎日です。私という一人の弱い人間、そのまま善しとされる安堵感の中に生きて居ります。

長くなりましたがアメリカに転勤族として4年暮らしたことがあります。その時に通っていた教会（ドイツ系のルーテル教会）の老

今月、受洗記念日を 迎えた方々

4日 ○田○代姉

5日 ○本○太郎兄



9日 ○井龍之○兄

○林○紗姉

30日 吉○○沙姉、

吉○朗兄、吉○樹兄

おめでとうございます。

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。
どんなことにも感謝しなさい。」

テサロニケの信徒への手紙一5章16-18節a

●藤が丘教会の情報は、右のQRコードから。



パスター（牧師）の名刺の裏にこう書かれて居りました。

「あなたが私に出会ってそれを忘れてもあなたは何も失わない。もしあなたがイエス・キリストに出会って彼を忘れたらあなたは全てを失う」。

●牧師室より



たいへん暑い夏でしたね。9月の第一日曜日は、「宣教40年感謝礼拝」として、栗原茂先生を説教者にお迎えしました。世田谷新町教会とのつながりを新たに思う機会となりますように。

病院や施設、ご自宅で療養されている方が増えています。それぞれの健康が守られますように、ご一緒に祈ってまいりましょう。



👉スマートフォンで、こちらのQRコードを読み込むと、教会のさまざまな情報を、確認出来ます。